

「主にある主体性」
～人任せ。流されていませんか？～

ローマ 10:9～11

ヨナ 3:4～10

あなたは、木にたとえるとどんな木ですか？どんなふうに立っていますか？私たちの人生を木に例えると、土から上は「能力・結果・力量」。根は「人格・誠実さ・意図」を表します。私たちの人生では、土から上の部分がもてはやされがちですが、大事なのは根です。根がはってこそ木は育つのです。種を植えても最初に生えるのは根です。人は「人格・誠実さ・意図」の3つが無ければ、ただの形だけのものになってしまいます。しかし、この3つをもっていると、たとえ人生の冬にあたって、また春には芽を出すのです。とくに、意図は大切です。しかし、一般的には「悪巧み」の様に捉えてしまうのです。多くの人が、周囲と協調し人任せにして、完全に自分の意図が無いのです。しかし、頑張っている人には意図があります。意図とは、書いたとおり意識の図です。あなたは、考えたとおりに行動しようとする思いの図が描けていますか？この意図に誠実さ・人格が加われば、あなたは毎年素晴らしい木を成長させることができます。すなわち、能力が与えられるのです。能力は自分一人の力にあらず、周囲の協力・助けがあってこそそのものです。そうすると結果が出ます。そして、素晴らしい力量（周りをまとめ求心力があり包容量がある）をもった人となるのです。木は、私たちの救いの基です。私たちは、そのように全ての人を救うべく意図をもった、根がしっかりと育ち自立した、結果や能力が発揮できる木になるべきです。自立（個人の成長）は「依存」→「自立」→「相互協力」で表すことができます。「依存」は、自分の決断や方向性を全て他人にまかしている状態。「自立」は、自分で決断や方向性を決め、周囲に左右されない状態。「相互協力」は、自立した者が集まり、協力して相乗効果を出す状態。聖書では常に自立することを望んでいます。心に浮き沈みのある精神状態は、他人の結論に左右されている依存状態にあるのです。自ら結論を出し、自立して描いた意図と一緒にやり抜くパートナーと相互協力していくことが大切なのです。しかし、私たちは、自らが責任を負わなくてもよい状況へもっていきがちです。その一番の方法が自分で結論を出さないという事です。小さい子どもを見てください。誰かの結論に頼っていますか？この子たちはとても主体的です。私たちは、いつから主体的になるのを、自ら結論を出すのを止めてしまったのでしょうか。確かに教会は共同体であって1つのキリストの計画を進めていくものです。聖書では全体の一人とは言っていない。一人が自立して立ってこそその全体が成り立つのです。神さまは、ヨナに「ニネベに行け」と命令したでしょうか？いいえ。ヨナは自らニネベに行くことと決断しました。すると吐き出されたところがニネベだったというわけです。嫌なら引き返しても良かったのですが、彼は街中に予言を知らせてまわりました。彼の意図していたところは「言ったってどうせ聞かない」でした。ところが、ニネベの民は“自らおのおの”悪の道と暴虐な行いから立ち返ったのです。王でさえ家来に言われたからではなく“自ら”王座からおりたのです。“自らおのおの”が大切なのです。子どもは自らで立って自らで行きたいところを決断し自らで進むのです。ところがそれが協調路線から妥協に入っていくと本当は嫌なのに合わせてしまうという怖い状況に陥ってしまうのです。自らが必ず決めて自らが判断して事を行っていますか？そこには、アドバイスを聞くことは大切ですが、聞いたことをそのまま実行するの間違いです。あくまで神さまからメッセージを受け、御言葉を聞いてそこで初めて「そうする！」と決断をしないとダメです。自分は痛い思いをしたくないから自分ではない相手や周りに流されて生きている可能性が高いのです。協調・秩序は大切ですが、そこで自らが決断して行動していかないとただのロボットになってしまいます。神さまは、いつでもヨナに結論を出させていました。ヨナに「怒るなよ」とも言いませんでした。しかし、いつも助けてもらってばかりのヨナの話はとうごまが枯れたところで終わっています。信仰も何もかも自分の結論なのです。聖書はいつも主体的です。あなたに決めさせています。イエス・キリストは病を癒す時、必ず「あなたはどなりたいのか」ときいています。豚に入りたいと言った悪霊にでさえ主体的な要素を残したのです。あなたに対してすべて主体的に動くようにされています。神さまは私たちに「こうだ！」と言いきって伝えます。ペテロにイエス・キリストは「人をとる漁師になる」と言っただけです。イエス・キリストについて行くために網を捨てたのはペテロ自身です。あなたが自主的・主体的に行動しなければいけません。しかし、主体的にやって失敗するのは過去の経験・理想の人に基づいて自分の力でやるからです。聖書の中から目標をもって築くことが大切です。結論が流されると成長して実を結ぶことができなくなってしまいます。このように流されて生きないために、**①自分が祈り、悔い改める。**（Ⅰ列王8:37～40）神さまはあなたにごめんなさいを言って欲しくて悔い改めろと言っているわけではありません。あなたが同じ失敗を繰り返さないため、あなたが幸せになるために悔い改めるようにと言っているのです。人任せにしなければいいのです。自分でできる環境は神さまが整えてくれます。だから私たちが祈って私たちの意図を神さまに知って頂く必要があります。だから自分がしなければいけないことは自分でしましょう。でも、一人でしなければいけないと思わないでください。自分がしっかりと意図をもっていれば周囲は協調してやってくれます。自分が祈り悔い改めていきましょう。**②自分を調べ、知る。**（ガラ6:1～5）これがなければ主体的に動くことができません。自分が本当にしたいことが解らない、自分の進む道が解らない人が主体的に進むとどうなるでしょう。意図がないのに何が成り立ちますか？先ほどの木の話でも、人格と誠実さが備わった意図がなければ上は育たないのです。自分たちの意図・人格は何なのか、本当にあなたが望んでいることは何なのか自分を調べて知ってください。そして、それが何のためなのか自分の本当の思いを知ってください。自分が何かをするのに意図を捜してください。意識の図、心の地図がないとゴールに向かって進むことが出来ません。**③嫌々しない。**自分で決めたとおりに。（Ⅱコリ9:6～12）おのおのが自分の心で決めたとおりにしないと意味がありません。私たちおのおのが、嫌々ながらではなく、自分の通りにし、自分の内側をしっかりと知って、その願いを神さまに知ってもらうことが大切です。このポイントをおさえて立派な木になりましょう。